

令和6年度病害虫発生予察情報 発生予報第5号(7月)

令和6年7月30日
発表：福島県病害虫防除所

1 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する。
	褐斑病	中通り 会津	—	やや多い 平年並	新梢葉での発生ほ場割合は、中通りでは平年より高く(+)、会津では平年並(±)であった。	現在、本病の二次感染期であるので、感染拡大を抑制するため天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する(令和6年6月26日付け令和6年度病害虫防除情報(リンゴ褐斑病)参照)。
	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。 天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する。
	キンモンホソガ	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	ハダニ類	全域	—	平年並	新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	園内の発生状況を確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施する。
モモ	灰星病	中通り	—	平年並	果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	収穫期の20日前頃から果実感染がしやすくなるため、特に不順天候時は散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施する。
	せん孔細菌病	中通り	—	やや少ない	新梢葉、果実での発生ほ場割合は平年よりやや低かった(-)。	発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。
	モモハモグリガ	中通り	—	平年並	新梢葉被害の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発生が多いほ場では、収穫後であっても薬剤散布を実施する。
	ハダニ類	中通り	—	平年並	新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	園内の発生状況を確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施する。

ナシ	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉及び果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	園内の発生状況を確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施する。
果樹共通	カメムシ類	全域	—	多い	フェロモントラップにおける越冬世代成虫の誘殺は平年より多かった(+) リンゴ、モモ、ナシでの果実被害の発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)。	第一世代成虫の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合薬剤散布を実施する(令和6年7月30日付け令和6年度病害虫発生予察情報注意報第3号参照)。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

モモ ナシ	<p>■ナシヒメシクイ</p> <p>病害虫防除所の7月上旬の巡回調査では、本種によるモモ新梢の芯折れ被害発生ほ場割合が6割程度と平年より高い状況です。また、この時期に確認されていない「中」発生のほ場が多数見つかっています。</p> <p>ナシヒメシクイ第3世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃高く推移した場合、8月2半旬頃と予測され、第4世代幼虫の防除適期は8月3半旬頃と推定されています(農業総合センター果樹研究所、7月26日現在)。</p> <p>近隣のモモやウメ等の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に、農薬使用基準を遵守し、防除を徹底しましょう(令和6年7月30日付け令和6年度病害虫防除情報(ナシヒメシクイ)参照)。</p>
モモ	<p>■シロカイガラムシ類</p> <p>病害虫防除所の7月中下旬の巡回調査において、側枝におけるシロカイガラムシ類の寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況で、特に伊達地域で目立っていました。</p> <p>ウメシロカイガラムシの幼虫発生期は、通常、第2回目が7月下旬～8月中旬であるため、発生が多い場合は、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参照して防除してください。</p>

2 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 ほ場の開口部をネット被覆するように努める。
	コナジラミ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。

夏秋トマト（被覆栽培）	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生初期から防除を徹底する。 ほ場への侵入を防ぐため開口部を防虫ネットで被覆する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）	まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。寄生種がトマトハモグリバエの場合は、今後の高温で増加する可能性があるため注意が必要である。
夏秋キュウリ（露地栽培）	べと病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施する。
	うどんこ病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施する。
	炭疽病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 排水対策の徹底、降雨による土のはね上がり防止に努める。
	褐斑病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 被害茎葉残さは必ずほ場外に持ち出して処分する。 また、資材の消毒に努める。
	アブラムシ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年並であった（±）が、天候予報（仙台管区気象台7月25日発表）によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（+）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 また、ウイルス病がまん延する可能性があるため、モザイク症状等の病徴が見られる株は、可能な限り抜き取って適切に処分する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年よりやや低かった（-）が、天候予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（+）。	低密度時から防除を徹底する。 薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、薬剤の選択に注意する。
キク（露地栽培）	白さび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。

キク（露地栽培）	アブラムシ類	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は平年よりやや低かった（－）が、天候予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（＋）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は平年並であった（±）が、天候予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（＋）。	低密度時から防除を実施する。薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は平年並であった（±）が、天候予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（＋）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	－	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	中位葉以上での発生に注意し、低密度時から防除を徹底する。
リンドウ ※過去8年間の平均値と比較	葉枯病	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は例年よりやや高かった（＋）。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	褐斑病	全 域	－	例年並	発生ほ場割合は例年並であり、巡回調査ほ場では発生が確認されなかった（±）が、阿武隈山間地において発生が確認されている。	病徴を確認してからの薬剤防除では効果が期待できないため、発病前からの予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は例年並であった（±）が、天候予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されている（＋）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	－	やや多い	発生ほ場割合は例年並であった（±）が、第一世代幼虫による芯折れ被害の程度が高いほ場があり、今後第二世代の被害が大きくなる可能性がある（＋）。	ほ場をよく観察し、防除を徹底する。
野菜・花き共通	タバコガ類	全 域	－	多い	発生ほ場割合は平年よりやや高く（＋）、7月26日時点で性フェロモントラップの誘殺数が増加しているため、今後の被害拡大が懸念される（＋）。	生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病虫害

秋冬ねぎ	<p>■ネギアザミウマ</p> <p>今年は昨年と比較して、発生程度が高まっています。高温乾燥条件で発生が助長され、多発してからの防除は困難ですので、早期防除に努めましょう。</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

夏秋トマト（被覆栽培）	<p>■タバココナジラミと黄化葉巻病（TYLCV）</p> <p>本年、複数地点において黄化葉巻病（TYLCV）の発生が確認されています。</p> <p>本病はウイルス病であり、タバココナジラミの媒介により感染します。汁液伝染，種子伝染，土壌伝染はしません。また、タバココナジラミ以外のオンシツコナジラミ等による虫媒伝染はしないため、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底することが重要です。</p> <p>本病の発生を認めた場合、タバココナジラミの侵入・脱出防止を心がけ、発生初期から適切な防除を行ってください。</p> <p>また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。</p> <p>病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」もご覧ください。</p> <p>「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf</p> <p>病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433113.pdf</p>
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで令和6年度農薬危害防止運動を実施しています◆
農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。